

地方創生推進交付金事業の効果検証について

事業年度	総事業費	単位：円		KPI（重要業績評価指数）			事業の効果・今後の方針	外部有識者による評価
		うち交付金充当額		事業開始時	目標値	実績値		
28年度	32,593,998	15,239,466	観光客数（人） 事業所数（事業所） 加茂市の人口（人）	552,600 1,478 27,864	560,000 1,480 27,600	558,290 1,372 27,179	<p>（評価）③ 地方創生に効果があった。</p> <p>・観光客数は、前年比で6千人増加。加茂山公園が19千人の大幅増となったほか、冬鳥越（スキー）3千人増、下条川ダム1.6千人増、加茂川夏祭り1千人増など。一方、雪樺まつりはパレード中止が影響して△12千人のほか、美人の湯でも△6千人。</p> <p>・事業所数は、106減。業種では、小売り・卸売業が△35と最も多く、次いで製造業が△31。</p> <p>・人口は、事業開始時（H27年10月、国勢調査）からH29年3月までの約1年半で△685人。（出生184人、死亡635人、転入579人、転出801人 ※速報値のため合計は不一致）</p> <p>（今後の方針）① 事業を継続する。 観光客のデータを分析しつつ、事業を継続する。</p>	①KPI達成に有効であった。
29年度	47,139,999	22,839,962	観光客数（人） 事業所数（事業所） 加茂市の人口（人）		580,000 1,490 27,300	570,480 － 26,662	<p>（評価）③ 地方創生に効果があった。</p> <p>・観光客数は、前年比12千人増。鯉のぼり、イベント、見晴台整備等で誘客を図った加茂山公園・土産物センター・青海神社春季祭礼で12千人の増。また、施設を整備した美人の湯も2千人増。一方で、イベントの一つである加茂川夏祭りは△5千人となった。</p> <p>・統計調査（経済センサス）が次回2019年となる。</p> <p>・人口は、前年同時期と比べ△517人。（出生126人、死亡449人、転入480人、転出674人）</p> <p>（今後の方針）① 事業を継続する。 事業の方向性は変えずに、観光客数を増やすしかけとしてWEBやSNSを活用したり、広報のタイミング見直し・回数増など、工夫しながら事業を継続する。</p>	①KPI達成に有効であった。
30年度	47,451,000	23,000,000	観光客数（人） 事業所数（事業所） 加茂市の人口（人）		600,000 1,500 27,000		<p>（評価）</p> <p>（今後の方針）</p>	

2018年7月検証

凡例・測定基準

<事業の効果について>

①地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

<今後の方針について>

①事業の継続（計画通りに事業を継続する）
②事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる）
③事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う）
④事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する）
⑤事業の終了（当初予定通り事業を終了する（または、した））

<外部有識者による評価> ①KPI達成に有効であった。 ②KPI達成に有効であったと言えない。